

令和5年度学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立武蔵村山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務主任)、1学年主任、主幹教諭(2学年担当)、3学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)
市教育委員会、PTA会長、学校医、近隣中学校長、近隣小学校長、地域代表、警察署員、同窓会 計8名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月22日(木) 内部委員10名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和5年11月16日(木) 内部委員10名、協議委員4名
学校活動報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和6年3月4日(月) 内部委員10名、協議委員4名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年11月16日(木) 内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年3月4日(月) 内部委員2名、協議委員1名
学校評価の結果分析・検証への指導助言

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期、方法、対象
 - ・実施時期 令和5年12月中旬から1月中旬まで
 - ・回答方法 生徒・保護者 Classi アンケート機能
教職員 Classi アンケート機能もしくは紙面
地域・住民 MicrosoftForms もしくは紙面
 - ・対象

全校生徒	751名	回答	695名	(回収率	92.5%)
保護者	751名	回答	410名	(回収率	54.6%)
教職員	60名	回答	55名	(回収率	91.7%)
地域・住民		回答	53名	(回収率前年度比	5.9倍)
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、体罰未然防止
- (4) 評価結果の概要

学習指導や進路指導を中心に、昨年度の質問項目を倍に増やして実施した。生徒と保護者の自由記述も多く、肯定否定にかかわらず率直な思いは教職員の気付きとなり、生徒保護者理解が深まる。教職員の回答と、生徒や保護者の回答に差がある項目については、学校側が「指導している」「取り組んでいる」と自負していることが、生徒や保護者は評価していない、地域の理解を得られていない、という結果となるため、原因を分析し、改善策を次年度の学校経営に反映させる。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・近隣の小中学校での学習サポートなどのボランティア活動は、大変良い取り組みである。普段は勉強に向き合わない児童・生徒も、高校生のお兄さんお姉さんが来る時には取り組んでいる。小中学生にとって近い将来の姿を思い描く良いロールモデルとなってほしい。
- ・家庭学習習慣の定着が十分ではない点を改善してほしい。地域密着型の高校として、入学前や入学後も、勉強しなければならないと中学生が思えるような高校であることを強く望む。
- ・相互授業観察を効果的な内容にするためには、観察した授業への気づきや改善点をしっかり指摘し合うことが必要である。
- ・生活指導は、今後も厳しく指導してほしい。中学校だけでなく小学校でも、子供のピアスや化粧、染毛等がなぜいけないのか、と意見する保護者が増えている。高校でも許されないということが、指導の根拠になっている。是非、小学校・中学校・高等学校が共通理解をして指導を進めていきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- ・学校評価アンケートの結果や自由記述をとおして、生徒・保護者の率直な意見を知ることができ、その後の生徒や保護者対応、説明、指導に生かすことができた。
- ・協議委員の意見や助言をとおして、地域における本校の使命を再確認することができた。
- ・協議委員の出席率が低く、助言の機会が十分とはいえなかったため、開催日時を見直す。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、様々な機会を通じて学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生徒の社会性、自立性を育むため、地域連携をより一層充実させ、地域の理解や信頼を得る。

(2) 学習指導

家庭学習習慣を身に付けさせるため、5教科を中心に予習復習等課題を課すことを徹底する。

(3) 特別活動

生徒が主体となって学校行事を運営するよう、早い段階から計画を立て、指導を工夫する。

(4) 生活指導

改善した累積指導方法を確実に定着させると共に、教員一人一人の指導力をあげるためのOJTや研修の機会を設ける。

(5) 進路指導

生徒、保護者のニーズを的確に把握し、進路に関する積極的な情報発信を行う。

生徒の希望進路実現のため、個別面接の回数や内容を見直し、一層の充実を目指す。

(6) 健康・安全

自転車事故を未然防止するため、交通安全指導を継続するとともに、ルールを守る理由を生徒自身に考えさせる指導を行う。

7 その他

- ・より適正な地域からの評価を得るためには、さらに積極的な学校の取組の情報発信や生徒の地域貢献で認知度をあげていく必要がある。
- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問数や内容を見直す。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。
- ・ライフ・ワーク・バランスの設問は、教職員以外の回答者が「わからない」という回答に終始することが想定されるため、日常の通知や説明、情報発信を工夫する。